



南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第6号

令和7年 8月29日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



めざすべき『笑顔あふれる学校』

～ 義理の母からもらった切り抜き…誤学習について考える～

校長 関根 治彦

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきて1週間が経とうとしています。子どもたちの様子を見ていると、この夏休みは子どもたちにとって有意義であったのではないかとうれしく思いました。私はというと、息子たちが仕事や大学の用事で自宅に戻ってきていないので、夫婦二人で断捨離を実行しました。そのときに、義理の母が私にくれた新聞記事の切り抜きを発見しました。投稿の時期は今から24年前の平成13年のものです。投稿の題名は「今の子どもはかわいそうである」というものです。「昔の子どもは、遊び道具など十分に与えてもらえなかった。だから、ある物で工夫しなければ、遊ぶことができなかった。しかし、今の子どもは様々な物が潤沢に与えられ、工夫しなくとも遊ぶことができています。それが子どもたちの工夫する力を奪っているのではないか。今の子どもと、昔の子ども、幸せなのはどちらの子どもであろうか。（内容の要約）」というものでした。その当時、息子が可愛くて可愛くて仕方がなかった私は、出張のたびに、レンジャーやライダーのおもちゃをお土産として買ってきて与えていました。お土産を渡したときの息子の笑顔が愛おしくて仕方がなかったのです。そんな様子を危惧して、義理の母が渡してくれたものでした。子どものためを思っていた行為が、実は子どものためにはなっていない。子どもの笑顔のためにしたことが、子どもの将来の笑顔につながっていない。「そういうことに気付きなさい。」という親の先輩としての助言であったと思います。

さて、それに似たこととして、最近「誤学習」という言葉をよく耳にします。不適切な行動に対して適切な結果が得られたことで、その行動を正しいと誤って学んでしまうことです。これは子どもが大人と接する中で起こりやすく、不適切な行動を訂正しないままだと、その行動が習慣化してしまう可能性があります。例えば、制限時間を超えてゲームをしたいと泣くので、制限時間を延長した。（泣けば延長してもらえると学習してしまう。）などです。誤学習を防いだり、訂正したりする具体は

- ① 行動の後の「結果」に注目する：子どもが不適切な行動をしても、それを肯定したり、喜ぶ結果を与えたりしないように注意する。
- ② その場しのぎの対応をしない：時間や余裕がない場合でも、不適切な行動をその場しのぎで肯定しないことが大切です。
- ③ 適切な方法を教える：その行動がなぜいけないのかを伝え、代わりにどうすればよいのかを具体的に教える。

ことです。そして、最も重要なことは、子どもたちの将来の姿を考えることです。本校の目指す「笑顔あふれる学校」とは、今、現在子どもたちの笑顔があることだけでなく、将来にわたって、「南郷小学校で学んでよかった。」と笑顔があふれていることです。前期のまとめの月に入ります。保護者の皆様と子どもたちの将来の笑顔のためには、南郷小学校教職員一同、精一杯頑張っていきたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。